

1. 略歴

- 1992年3月 東京大学文学部心理学専修課程卒業
- 1992年4月 東京大学文学部研究生（～1993年3月）
- 1993年4月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程入学
- 1995年3月 同修了（修士（文学）取得）
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程進学
- 2000年3月 同単位取得退学
- 2001年4月 聖心女子大学文学部専任講師
- 2003年4月 聖心女子大学大学院文学研究科専任講師兼任
- 2007年4月 聖心女子大学文学部准教授、聖心女子大学大学院文学研究科准教授兼任
- 2008年9月 博士（文学）取得（東京大学大学院人文社会系研究科）
- 2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

死生学、宗教学、スピリチュアリティ研究、環境思想

b 研究課題

日本人の死生観、宗教研究、現代日本人の個人主義的スピリチュアリティ、未来倫理

c 概要と自己評価

研究と教育の方向性は大きく二つに分けられる。一つは死生学方面で、もう一つは環境思想方面である。この二つは、死生学・応用倫理センターの、「死生学」と「応用倫理」に対応する。

死生学方面では、かねてよりおこなっていた被災地での霊的体験に関する調査研究を英語論文にまとめ、韓国でも発表するなど、日本の被災者の状況と死生観について国際的に発信することができた。韓国の研究者との交流は定期的に続いている。また、死にゆくものの心理、悲嘆の心理、自殺、孤立死など、現代社会で人々が知りたいと思う、死生学のトピックを広く研究してきた。

この死生学方面の研究と関連するのが、スピリチュアリティ研究・宗教研究である。現代人の個人主義的なスピリチュアリティへの関心の具体例として「パワースポット」現象なども取り上げ、これを個人主義的な伝統回帰として位置づけた。それと関連して、現代社会におけるスピリチュアリティの位置づけについても研究を進めた。その結果、スピリチュアリティが個人的なものにとどまらず、公的領域に進出している状況、また社会的病理としての「うつ」とどのように関わっているかなどを明らかにした。

一方、環境思想方面は、理論的なものと現実的なものの両面で研究を展開してきた。理論的なものとして、P・リクルの哲学と「希望」という概念の生成過程をまとめた。現実的なものとしては、原発事故と同様の問題が東アジア各国で起こっているという現状を指摘し、市民の連帯の可能性を示唆した。

今後、日本人の死生観の量的調査を続行し、死生観に関する基礎的なデータを提供することを当センターの社会的責務と位置づけ、着実に実行していきたい。また、現在は、島菌進名誉教授（現在は上智大学）と川崎市におけるケア提供者の死生観、スピリチュアリティについて質的に調査している。いずれ、都市型社会における人々の苦しみの重層性、その中から立ち上がるケア提供者の来歴について、調査をまとめてゆきたい。また、環境思想方面では、未来倫理に関する探究をすすめ、理論的な方面での研究を進めてゆきたい。

d 主要業績

(1) 論文

堀江宗正、「島田裕巳——「心の時代」からオウム真理教へ」、『ひとびとの精神史 第8巻 バブル崩壊——1990年代』（岩波書店、2016年5月）、75-103頁

堀江宗正、「リクルと現代社会——われわれは何を希望することが許されるか」、鹿島徹・越門勝彦・川口茂雄編『リクル読本』（法政大学出版局、2016年7月）、27-36頁

Norichika Horie, "Continuing Bonds in the Tōhoku Disaster Area: Locating the Destination of Spirits," *Journal of Religion in Japan* 5, pp. 199-226

堀江宗正「経済優先から〈いのち〉の連帯へ——原発事故を契機として」、『死生学・応用倫理研究』22号（2017年7月）、45-70頁

Norichika Horie, "The Making of Power Spots: From New Age Spirituality to Shinto Spirituality," Jørn Borup and Marianne Qvortrup Fibiger (eds.), *Eastspirit: Transnational Spirituality and Religious Circulation in East and West* (Brill, August 2017), pp. 192-217

堀江宗正、「死と看取りの宗教心理——自己の死と他者の死のつながり」、清水哲郎・会田薫子『医療・介護のための死生学入門』（東京大学出版会、2017年8月）、141-171頁

堀江宗正、「職場スピリチュアリティとは何か——その理論的展開と歴史的意義」、『宗教研究』第91巻2号（2017年9月）、413-438頁

堀江宗正「スピリチュアリティと「うつ」とポジティブ思考」、『臨床精神病理』第38巻第2号（2017年9月）、191-200頁

堀江宗正、「과워스팟 체험의 현상학 : 현세이익에서 심리이익으로 (パワースポット体験の現象学——現世利益から心理利益へ)」、『日本批評 Korean Journal of Japanese Studies』18、2018年2月15日、
<<https://doi.org/10.291514/ILBI.2018.18.126>>

(2) 書評

堀江宗正、井藤美由紀『いかに死を受けとめたか——終末期がん患者を支えた家族たち』（ナカニシヤ出版、2015）、『宗教研究』第90巻3号（2016年12月）、639-645頁

(3) 学会発表

島藺進・堀江宗正、「Suicide Prevention in Japan: Does religion help to prevent suicide?」、第7回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会（東京コンベンションホール、2016年5月19日）

堀江宗正、「トニー・ウォルターの悲嘆文化論」、上廣死生学・応用倫理講座『医療・介護従事者のための死生学——2016年度夏季セミナー』（東京大学、2016年7月30日）

堀江宗正、「スピリチュアリティと抑うつとポジティブ思考」、日本精神病理学会発表（アクトシティ浜松、2016年10月7日）

堀江宗正、「The Making of Power Spots: From New Age Spirituality to Shinto Spirituality」、Association of Asian Studies (Sheraton Centre Toronto Hotel、2017年3月19日)

堀江宗正、「Continuing Bonds in the Tōhoku Disaster Area: Locating the Destinations of Spirits」、翰林大学生死学研究所国際シンポジウム、2017年5月19日

堀江宗正、「市場スピリチュアリティから職場スピリチュアリティへ——消費からの脱却?」、「宗教と社会」学会（大阪国際大学、2017年6月4日）

堀江宗正、「孤立と排除の死生学——孤独の背景」、上廣死生学・応用倫理講座『医療・介護従事者のための死生学——2017年度夏季セミナー』（東京大学、2017年9月3日）

堀江宗正、「教義と臨床のはざままで——宗教は自殺罪悪観を乗り越えられるか」、日本自殺予防学会（つくば国際会議場、2017年9月23日）

堀江宗正、「死と生に学ぶ——私の研究と経験から」、築地本願寺仏教文化講座（築地本願寺、2017年10月14日）

堀江宗正、「ケアに向かう人——その動機づけについて」、日本臨床知識学会発表（東京大学、2018年1月27日）

堀江宗正、「物語的現実としての霊——他者の死と自己の死をつなぐもの」、宗教哲学会シンポジウム発表（京都大学、2018年3月24日）

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本宗教学会、「宗教と社会」学会、日本社会学会、日本生命倫理学会、日仏哲学会